



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月12日

上場会社名 森下仁丹株式会社 上場取引所 東
コード番号 4524 URL <https://www.jintan.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森下 雄司
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 管理本部長 (氏名) 吉田 秀章 TEL 06-6761-1131
半期報告書提出予定日 2024年11月12日 配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	6,384	1.4	244	△60.6	262	△59.3	182	△61.4
2024年3月期中間期	6,295	16.3	621	94.0	645	88.0	473	81.6

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 527百万円 (△60.1%) 2024年3月期中間期 1,320百万円 (153.6%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	44.73	-
2024年3月期中間期	116.02	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	17,624	12,478	70.8
2024年3月期	17,183	12,144	70.7

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 12,478百万円 2024年3月期 12,144百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	50.00	50.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期（予想）	-	-	-	55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,700	2.4	850	18.7	900	10.3	700	0.4	171.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	4,150,000株	2024年3月期	4,150,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	58,875株	2024年3月期	64,182株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	4,087,649株	2024年3月期中間期	4,083,448株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済の景気は、踊り場を抜けて持ち直しの動きが見られ、内需主導で緩やかに回復しています。しかしながら、地政学的リスクの高まりによる燃料価格や原材料価格の上昇、それを受けての物価の上昇や名目賃金の上昇も今後も継続すると予想されます。

このような経済状況のもとで、当社グループは、コンシューマー事業におきましては、ナショナルブランド品の「ビフィーナ®」を主軸とし、国内販売が堅調に推移しております。2024年8月には、「JAPANドラッグストアショー」に出展し、次世代のスーパー物質として期待される「タンサ脂肪酸」をはじめとする新ブランドの商品ラインナップと、当社で培ってきた技術“届ける球体”腸テクノロジーの秘密について紹介いたしました。また、出展社の中から企画やデザインに優れたブースとして、当社のブースは実行委員長特別賞を受賞しました。今後も“届ける球体”技術を活用した腸テクノロジーによって、皆様の健康課題の解決を目指して製品及びサービス開発を進めてまいります。

2024年2月より「仁丹」のリブランディングに取り組んでおります。当社の技術力や品質、真心や熱意、挑戦心が詰まった“モノづくりの魂の原点”であり、社名の一部でもある「仁丹」をより身近に感じていただくため、「巨大ガチャイベント」に続き、8月に開催された「酒祭2024」にてサンプリングを行いました。今後も、若者をはじめ多くの方々に認知いただくべく、ステークホルダーの皆様とのリレーションを高めてまいります。

ソリューション事業におきましては、可食分野のジェネリック医薬品および機能性素材の販売と、非可食分野の化粧品用シームレスカプセルの販売が引き続き堅調に推移しております。2024年9月には、タイ・バンコクで開催されたアジア最大級の栄養補助食品イベント「Vitafoods Asia」に出展し、多くの治験と豊富な実績を持つ当社のシームレスカプセル技術について、その多様性と汎用性について幅広く情報発信しました。今後も、高付加価値シームレスカプセルの開発・製造、オープンイノベーションによるパートナーとの共創を推進してまいります。また、そこで得られた知見を新たなシームレスカプセル技術開発に応用するサイクルを構築して、社会へシームレスカプセル技術を通じたソリューションの提供を続けてまいります。

売上面では、ソリューション事業が増収したものの、コンシューマー事業が減収し、全体としては微増となりました。利益面では、当社で製造販売を行っている化粧品「販売名：仁丹パックシートH」の自主回収に伴う費用を計上したことにより、減益となりました。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高6,384百万円(前年同期比1.4%増)、営業利益244百万円(前年同期比60.6%減)、経常利益262百万円(前年同期比59.3%減)、親会社株主に帰属する中間純利益182百万円(前年同期比61.4%減)となりました。

なお、2025年3月期の通期連結業績予想につきましては、コンシューマー事業ではインバウンド需要への取り組み強化、ソリューション事業では機能性素材およびシームレスカプセルの受託量を増加させつつ、経費の見直しを実施することにより、2024年5月9日に公表いたしました予想に変更はございません。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同中間期比較については、前年同中間期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

① コンシューマー事業

コンシューマー事業は、ナショナルブランドを強化し、グローバルな視点で戦略を見直すことで収益性の見直しを推進しております。当セグメントにおきましては、「ビフィーナ®」を主軸とし、国内販売が堅調に推移しておりますが、一部のアジア地域では減収となりました。また、パックシートの自主回収に伴う費用を計上したことにより、利益面でも減益となりました。

当セグメントにおきましては、売上高は、2,387百万円(前年同期比9.9%減)、セグメント損失は、217百万円(前年同期比は、セグメント利益147百万円)となりました。

② ソリューション事業

ソリューション事業は、当社独自のシームレスカプセル技術や機能性素材を活かすことで、顧客の課題解決を実現しております。当セグメントにおきましては、機能性素材およびジェネリック医薬品の販売が前年同期と比べ増収となりました。

当セグメントにおきましては、売上高は、3,993百万円(前年同期比9.6%増)、セグメント利益は、458百万円(前年同期比2.6%減)となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、売上高は、3百万円(前年同期比4.8%減)、セグメント利益は、3百万円(前年同期比4.8%減)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は7,046百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が338百万円増加しましたが、現金及び預金が248百万円、仕掛品が62百万円、商品及び製品が56百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は10,578百万円となり、前連結会計年度末に比べ447百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券の時価評価により投資有価証券が507百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は、17,624百万円となり、前連結会計年度末に比べ441百万円増加いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は3,178百万円となり、前連結会計年度末に比べ47百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が500百万円増加しましたが、支払手形及び買掛金が320百万円、未払費用が35百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は1,967百万円となり、前連結会計年度末に比べ154百万円増加いたしました。これは主に繰延税金負債が192百万円増加しましたが、約定返済により長期借入金が45百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は、5,146百万円となり、前連結会計年度末に比べ106百万円増加いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は12,478百万円となり、前連結会計年度末に比べ334百万円増加いたしました。これは主にその他有価証券評価差額金が344百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.8%（前連結会計年度末は70.7%）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、843百万円と前連結会計年度末と比べ248百万円（22.8%）の減少となりました。

当中間連結会計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における営業活動による資金の減少は117百万円（前年同期は163百万円の減少）となりました。その主な要因は、税金等調整前中間純利益262百万円、売上債権の増加額338百万円、仕入債務の減少額320百万円などによるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における投資活動による資金の減少は354百万円（前年同期は294百万円の減少）となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出325百万円、無形固定資産の取得による支出24百万円などによるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における財務活動による資金の増加は222百万円（前年同期は288百万円の減少）となりました。その主な要因は、短期借入金の純増加額500百万円、配当金の支払額194百万円、長期借入金の返済による支出82百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2024年5月9日の「2024年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,092	843
受取手形及び売掛金	2,442	2,781
商品及び製品	1,063	1,007
仕掛品	1,048	985
原材料及び貯蔵品	1,074	1,079
その他	343	361
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	7,053	7,046
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,657	1,668
機械装置及び運搬具(純額)	993	1,100
土地	2,150	2,150
その他(純額)	593	427
有形固定資産合計	5,394	5,346
無形固定資産	278	260
投資その他の資産		
投資有価証券	4,387	4,894
その他	69	76
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	4,456	4,970
固定資産合計	10,130	10,578
資産合計	17,183	17,624

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,336	1,016
短期借入金	—	500
1年内返済予定の長期借入金	164	127
未払費用	539	503
未払法人税等	207	74
賞与引当金	225	311
その他	752	645
流動負債合計	3,226	3,178
固定負債		
長期借入金	106	61
繰延税金負債	928	1,120
退職給付に係る負債	710	723
その他	68	61
固定負債合計	1,813	1,967
負債合計	5,039	5,146
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,537	3,537
資本剰余金	969	972
利益剰余金	5,706	5,684
自己株式	△108	△99
株主資本合計	10,104	10,095
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,037	2,381
退職給付に係る調整累計額	2	2
その他の包括利益累計額合計	2,039	2,383
純資産合計	12,144	12,478
負債純資産合計	17,183	17,624

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	6,295	6,384
売上原価	3,190	3,567
売上総利益	3,104	2,817
販売費及び一般管理費	2,482	2,572
営業利益	621	244
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	23	20
その他	1	2
営業外収益合計	25	22
営業外費用		
支払利息	1	2
その他	0	2
営業外費用合計	1	4
経常利益	645	262
税金等調整前中間純利益	645	262
法人税、住民税及び事業税	190	53
法人税等調整額	△18	26
法人税等合計	171	79
中間純利益	473	182
親会社株主に帰属する中間純利益	473	182

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	473	182
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	847	344
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	847	344
中間包括利益	1,320	527
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,320	527

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	645	262
減価償却費	288	281
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1	13
賞与引当金の増減額(△は減少)	62	85
受取利息及び受取配当金	△23	△20
支払利息	1	2
売上債権の増減額(△は増加)	△418	△338
棚卸資産の増減額(△は増加)	△471	114
仕入債務の増減額(△は減少)	4	△320
その他	△141	△45
小計	△50	34
利息及び配当金の受取額	25	29
利息の支払額	△1	△2
法人税等の支払額	△137	△180
営業活動によるキャッシュ・フロー	△163	△117
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△266	△325
無形固定資産の取得による支出	△25	△24
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△294	△354
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	500
長期借入金の返済による支出	△125	△82
配当金の支払額	△163	△194
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△288	222
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△746	△248
現金及び現金同等物の期首残高	2,409	1,092
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,662	843

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

- I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンシュー マー事 業	ソリューシ ョン事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,648	3,642	6,290	4	6,295	—	6,295
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,648	3,642	6,290	4	6,295	—	6,295
セグメント利益	147	470	617	4	621	—	621

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。
2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

- II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンシュー マー事 業	ソリューシ ョン事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,387	3,993	6,381	3	6,384	—	6,384
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,387	3,993	6,381	3	6,384	—	6,384
セグメント利益 又は損失(△)	△217	458	240	3	244	—	244

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。
2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、顧客グループの特性やニーズに合わせた戦略立案、リソース配分の最適化、効果的アプローチによる企業価値の向上を目的に経営管理区分の見直しを行ったことに伴い事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「ヘルスケア事業」「カプセル受託事業」から、「コンシューマー事業」「ソリューション事業」に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。